

# 緒 言

地質情報研究部門長 牧野雅彦

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々に深く哀悼の意を表します。また、被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

平成 23 年度は震災の影響で大変な年でした。産総研つくばセンターも大きな被害を受けましたが災害対策中央本部を中心に、電気・水道・インターネットなどのライフライン、研究室・研究実験室や研究設備の復旧に取り組みつつ、研究再構築を進めて来ました。

本報告は「沿岸域の地質・活断層調査」の平成 23 年度の研究活動を記録し、紹介するものです。震災後の厳しい環境の下で、職員一同、研究再開に向けて努力してきました。震災の影響で調査研究計画の変更もいたしました。ご高覧いただき、活動内容や成果についてご理解いただくとともに、忌憚の無いご意見を賜りますようお願いいたします。

本報告には、11 件の研究成果の報告が収められています。東日本大震災に関連する成果としては、「2011 年東北地方太平洋沖地震の津波に関する緊急調査」、「三陸沖海底堆積物最表層に認められた地震／津波イベント堆積物」が報告されています。また、「海溝型地震履歴解明の研究」は、海溝沿いのプレート境界で起こる超巨大地震の痕跡についての報告です。石狩低地沿岸域の調査研究では、石狩低東縁断層帯の反射法地震探査、苫小牧付近の反射法データの再解析、苫小牧沖の重力データ編集、苫小牧付近のボーリング調査、石狩平野等の地下水調査があります。その他に、関東平野の地盤モデル、東北地方太平洋沖地震の余震を利用した地震波干渉法実験、大震災によって損傷を受けた海域の反射断面データベースの復旧に関する報告もあります。

日本の沿岸域には人口が集中する平野が点在し、日本人の多くが生活の基盤を沿岸域に置いています。沿岸域は、豊かな自然の恵みと人々の居住空間をもたらす土地であるがゆえに、そこで起こる地震や津波、液状化などの地質現象とそれによって引き起こされる災害は、国民の多くにとって脅威となっています。沿岸域において、活断層や地盤の地質に関する、正確で精密な地質情報を整備することは、安心・安全な生活を守る防災と、地盤の安全かつ効率的な利活用の見地から、非常に重要です。本報告をはじめ、沿岸域の地質・活断層の研究成果が、国民生活の安全と向上に寄与することを切に願います。